

製品名: PAIP1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe02396**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC/IF 1:50-1:200,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 54 kDa; Observed MW: 54 kDa

抗原情報

遺伝子名	PAIP1
別名	poly(A) binding protein interacting protein 1
遺伝子 ID	10605
SwissProt ID	Q9H074
免疫原	ヒト PAIP1 の合成ペプチド

背景

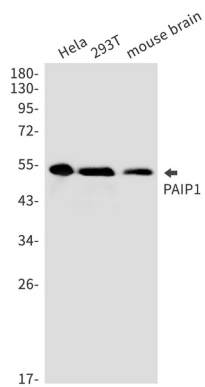
ポリ(A)含有 mRNA の翻訳開始制御においてコアクチベーターとして作用する。翻訳刺激活性は PABPC1 への作用を介して媒介され

る。PABPC1 への結合において PAIP2 と競合する。EIF4A および PABPC1 との結合は、mRNA 末端間の接触を増強する可能性がある。また、翻訳に連動した mRNA のターンオーバーにも関与している可能性がある。主要コード領域不安定性決定因子 (mCRD) ドメインを介した FOS mRNA の細胞質脱アデニル化 / 翻訳および分解の相互作用において、他の RNA 結合タンパク質と関与することが示唆されている。

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



PAIP1 抗体を使用した HeLa、293T、マウス脳溶解物中の PAIP1 のウエスタンブロット分析。